

第 18 回「地域ブランド調査 2023」
北海道が 15 年連続 1 位。札幌市は 3 年連続 9 度目の 1 位に
 魅力度等主要項目の平均が前年比低下も依然高水準を維持

2023 年 10 月 13 日
 株式会社ブランド総合研究所

全国で最も魅力的と評価された都道府県は 15 年連続で北海道。市区町村では札幌市が 3 年連続 9 度目の 1 位。——株式会社ブランド総合研究所(本社:東京都港区、代表取締役:田中章雄)が実施した「地域ブランド調査 2023」の結果からは、このような結果が明らかとなりました。

地域ブランド調査は、国内 1,000 の市区町村及び 47 都道府県の地域名称について、認知度や魅力度、イメージなど全 89 項目について質問し、各地域名称のイメージ形成や行動意向、評価等について明らかにする消費者調査です。調査はインターネットを通じて実施し、本年は全国の消費者 34,117 人から有効回答を得ました。調査は 2006 年から毎年実施しており、今年が 18 回目となります(都道府県の調査は 2009 年から 15 回目)。

今回の調査結果では、2021 年から上昇していた「魅力度」をはじめとした各項目の平均点が県・市共に低下しました。ただし、2020 年以前と比較すると、依然として各項目の平均点は高い水準を維持しています。

調査結果の特徴は以下の通りとなります。

(表 1) 都道府県の魅力度ランキング

順位		都道府県	魅力度(点)	
2023	2022		2023	2022
1	(1)	北海道	72.4	(73.3)
2	(2)	京都府	56.6	(57.3)
3	(3)	沖縄県	52.7	(53.6)
4	(4)	東京都	49.0	(49.3)
5	(5)	大阪府	43.3	(43.2)
6	(7)	福岡県	40.4	(40.8)
7	(6)	神奈川県	39.4	(41.6)
8	(8)	奈良県	37.2	(36.9)
9	(10)	石川県	33.4	(33.1)
10	(9)	長崎県	32.3	(35.8)

(表 2) 市区町村の魅力度ランキング

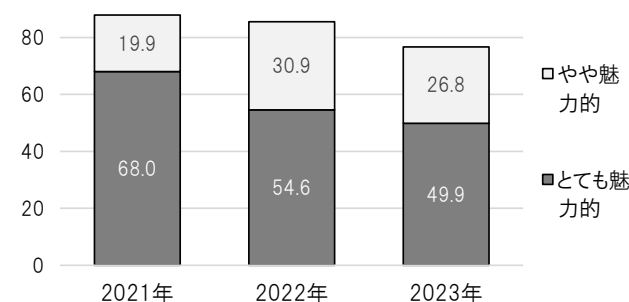
順位		市区町村	魅力度(点)	
2023	2022		2023	2022
1	(1)	札幌市	59.4	(63.9)
2	(2)	京都市	57.8	(59.5)
3	(3)	函館市	56.6	(58.7)
4	(8)	金沢市	53.1	(50.9)
5	(7)	鎌倉市	52.0	(52.1)
6	(6)	神戸市	51.8	(55.7)
7	(4)	横浜市	50.7	(56.1)
8	(5)	小樽市	50.6	(55.8)
9	(9)	那覇市	46.4	(49.8)
10	(12)	軽井沢町	46.1	(48.8)

■ 北海道は 20 代で魅力度が低下

今回の調査では北海道が 15 年連続で魅力度 1 位となったが、その点数は 2021 年の 73.4 点から徐々に低下している。その原因の一つは、20 代からの評価が低下していることがあげられる。20 代が北海道を「とても魅力的」と答えた人の割合は 2023 年は 49.9%で、2022 年の 54.6%、2021 年の 68.0%より大きく低下している(図 3)。その結果、20 代による今回の魅力度は 63.3 点で、前年の 70.0 点、2021 年の 77.9 点より大幅に低下してしまった。

この傾向は市区町村で 3 年連続 1 位となった札幌市も同様で、今年 60.0 点、2022 年は 62.4 点、そして 2021 年は 67.2 点と年々低下

(図 3) 20 代における北海道の魅力に関する回答結果(%)



している。

その原因の一つとして考えられるのは「食事がおいしい」「地元産の食材が豊富」の北海道のイメージが、20代において低下していること。嗜好や興味が多様化する20代に、「北海道産」というだけでは満足されなくなってきた可能性がある。

■ 県・市ともに主要項目の平均点が低下

魅力度の点数が低下したのは、北海道だけではない。今年度の結果では、魅力度をはじめ、主要な調査項目の平均点は、都道府県、市区町村共に前年度と比較して低下する傾向がみられた。魅力度は都道府県の平均が27.2点で前年から0.5点、市区町村の平均が10.9点で前年から0.3点低下している。

その他の項目では、それぞれの地域名を認知しているかを問う「認知度」が都道府県、市区町村ともに平均点が低下しているほか、各地を訪れてみたいかどうかの行動意向を問う「観光意欲度」も、都道府県平均が42.5点で前年から1.2点低下。市区町村平均も21.8点で0.6点低下している(表4)。

このように、各項目の平均点は前年と比較すると低下がみられた。しかし、より長い期間で比較すると、2020年以前よりはすべての指標で高くなっている。例えば魅力度の都道府県平均は2020年は21.5点、2019年は20.9点となっており、地域の魅力が低下しているとは限らない。

(表4) 都道府県・市区町村の主要項目平均点

調査項目	都道府県			市区町村		
	2023	2022	差	2023	2022	差
魅力度	27.2	27.7	▲0.5	10.9	11.2	▲0.3
認知度	50.4	50.7	▲0.3	24.4	25.2	▲0.8
情報接触度	40.6	40.5	0.1	16.6	17.1	▲0.5
居留意欲度	11.3	11.4	▲0.1	6.1	6.5	▲0.4
観光意欲度	42.5	43.7	▲1.2	21.8	22.4	▲0.6
産品想起率(総合)	24.0	25.1	▲1.1	5.3	5.7	▲0.4

■ 属性別結果にみる各県の傾向

47都道府県の魅力度の結果を、回答者の年代と居住地による違いを分析し、それぞれの都道府県に魅力を感じる人の特徴が明らかになるように図形化してみた。

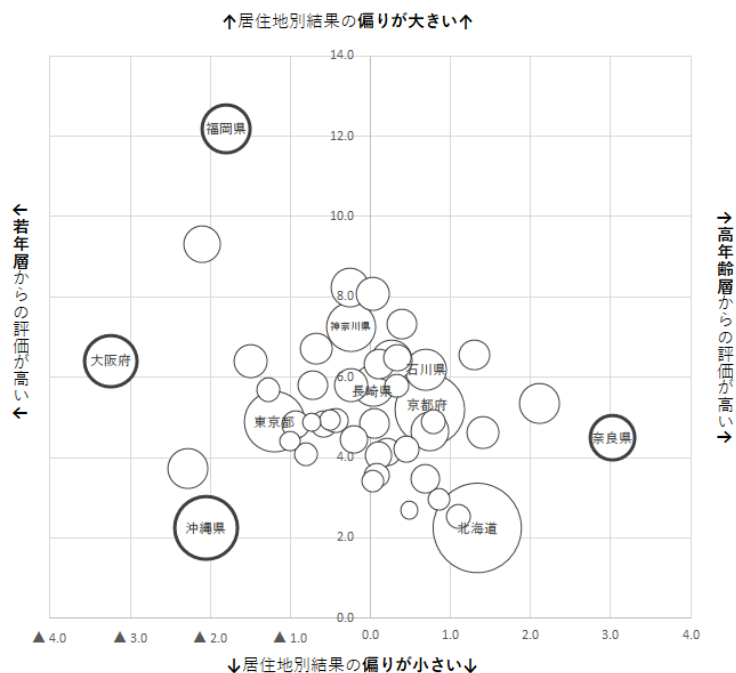
図5は、横軸には年代別分析の結果、すなわちプロット位置が右側にあるほど高齢層からの評価が高く、左に位置するほど若年層からの評価が高いことになる。

縦軸は、その都道府県に魅力を感じる人がある特定の地域(多くは自県が位置するエリア)からの評価が高い場合は上に、偏りが小さい場合は下にプロットされる。

例えば福岡県は九州地域からの評価が極めて高く、大阪府は若年層からの評価が高い。沖縄県は若年層からも高く、地域に偏りなく全国から満遍なく評価を受けている。そして奈良県は高齢者層からの評価が高いことになる。

それぞれの地域が他の県と比較してどのような特徴があるかを把握するとともに、経年でどのような変化があったかを分析することで、地域特性の把握が可能となる。

(図5) 都道府県魅力度の年代別・居住地別結果の特徴分布図



■ 北広島市(北海道)の各項目が急上昇

今年、市区町村で最も魅力度の点数が上昇したのは北広島市(北海道)となった。同市は前年の7.8点(474位)から12.9点(289位)と5.1点上昇。他の項目では認知度や情報接触度といった地域名の周知性に関する項目も上昇しており、調査項目・地域の特性想起「プロスポーツチームや選手」は6.4%から18.3%と11.9ポイントも上昇している。同市では他にも観光意欲度が上昇している(表6)。

(表6) 北広島市の主要項目結果

項目	順位		点	
魅力度	289	(474)	12.9	(7.8)
認知度	380	(547)	26.6	(20.9)
情報接触度	192	(392)	25.6	(16.6)
観光意欲度	211	(348)	27.4	(23.3)
地域コンテンツの認知 「プロスポーツチームや選手」	3	(26)	18.3	6.4
まちの特性想起 「スポーツのまち」	3	(23)	20.4	10.6

<調査内容>

「地域ブランド調査 2023」は、ブランド総合研究所が年1回実施している調査で、2006年にスタートし、今回が第18回目。調査対象は全792市(2023年4月末現在)と東京23区、および地域ブランドへの取り組みに熱心な185の町村を加えた計1000の市区町村、そして47都道府県です。各地域に対して魅力度など全89項目の設問を設け、地域のブランド力を、消費者が各地域に抱く「魅力」として数値化しました。

<調査概要>

- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 回答者 20代～70代の消費者を男女別、各年代別、地域別にはほぼ同数ずつ回収し、日本の縮図になるように、年齢や地域人口の分布にあわせて再集計した。
- ・ 有効回収数 34,117人(一人の回答者に対して市区町村の調査票では20地域、都道府県については15または16地域を提示し、それぞれについて回答してもらった。なお、地域ごとの回答者数は都道府県は平均で1,078人、市区町村は平均で618人)
- ・ 調査対象 全国1,000の市区町村(全792市+東京23区+185町村)と47都道府県
- ・ 調査時期 2023年6月20日～7月3日
- ・ 調査項目 認知、魅力、情報接触、観光意欲、居留意欲、情報接触経路(「旅やグルメに関する番組」など14項目)、地域コンテンツの認知(「海・山・川・湖などの地理的名称」など17項目)、訪問経験(「行楽・観光のため」など6項目)、地域資源評価(「街並みや魅力的な建造物がある」など17項目)、地域の特性(「歴史・文化のまち」など14項目)、地域イメージ(「あこがれる」など14項目)、商品想起率(食品、非食品をそれぞれ自由記述)の計89項目

<調査報告書について>

総合報告書 (税込88,000円※)	1000市区町村および47都道府県の全89項目に関するデータをまとめた報告書
個別報告書 (税込55,000円※)	ご希望の市区町村・都道府県の結果を表やグラフで分析し、さらに回答者属性(年齢、居住地、ライフスタイルなど)別の結果を分析した報告書
ハンドブック (税込4,400円)	1047地域の結果に関し、8つの主要指標(認知度、魅力度、情報接触度、居留意欲度、観光意欲度、商品想起率(総合、食品、食品以外))に内容を絞った報告書

※総合報告書・個別報告書のセットは特別価格税込110,000円

<ブランド総合研究所の会社概要>

ブランド総合研究所は、地域ブランドに関する調査とコンサルティングを行う専門企業です。代表取締役の田中章雄は地域ブランドの提唱者として全国各地で地域ブランドに関する講演を行っているほか、地域ブランドアドバイザーとして弊社コンサルタントスタッフと総力をあげて、全国各地の地域の活性化に取り組んでいます。

- ・ 本社 東京都港区虎ノ門1-1-20
- ・ 代表取締役 田中章雄
- ・ 資本金 2500万円
- ・ 設立 2005年11月

<都道府県結果 主要な指標の上位結果(一部のみ)>

(表 7)魅力度

順位	都道府県名	点数
1 (1)	北海道	72.4 (73.3)
2 (2)	京都府	56.6 (57.3)
3 (3)	沖縄県	52.7 (53.6)
4 (4)	東京都	49.0 (49.3)
5 (5)	大阪府	43.3 (43.2)
6 (7)	福岡県	40.4 (40.8)
7 (6)	神奈川県	39.4 (41.6)
8 (8)	奈良県	37.2 (36.9)
9 (10)	石川県	33.4 (33.1)
10 (9)	長崎県	32.3 (35.8)
11 (15)	宮城県	32.2 (29.6)
12 (13)	千葉県	32.1 (32.0)
13 (12)	長野県	31.9 (32.2)
14 (11)	兵庫県	30.6 (32.4)
14 (14)	静岡県	30.6 (30.5)
16 (20)	愛知県	29.1 (25.8)
17 (18)	広島県	26.5 (27.3)
18 (17)	熊本県	26.3 (27.4)
19 (16)	鹿児島県	26.1 (27.6)
20 (19)	青森県	25.2 (26.7)
47 都道府県平均		27.2 (27.7)

(表 8)居注意欲度

順位	都道府県名	点数
1 (1)	東京都	26.3
2 (2)	北海道	24.7
3 (3)	神奈川県	24.4
4 (4)	京都府	21.1
5 (5)	福岡県	20.8
6 (6)	沖縄県	20.2
7 (8)	大阪府	19.2
8 (9)	千葉県	16.9
9 (7)	兵庫県	16.7
10 (11)	愛知県	16.5
47 都道府県平均		11.3

(表 10)食品想起率

順位	都道府県名	点数
1 (1)	北海道	52.9
2 (2)	大阪府	36.0
3 (6)	広島県	31.8
4 (10)	福岡県	30.9
5 (3)	沖縄県	30.4
6 (13)	長崎県	29.1
7 (8)	宮城県	28.9
8 (11)	香川県	28.5
9 (4)	秋田県	28.0
10 (5)	青森県	27.6
47 都道府県平均		20.3

(表 9)観光意欲度

順位	都道府県名	点数
1 (1)	北海道	72.3
2 (3)	沖縄県	61.8
3 (2)	京都府	61.3
4 (4)	東京都	53.7
5 (5)	福岡県	53.2
6 (7)	大阪府	52.3
7 (8)	奈良県	49.4
8 (9)	神奈川県	48.7
9 (12)	石川県	48.5
10 (15)	宮城県	47.9
47 都道府県平均		42.5

(表 11)食品以外想起率

順位	都道府県名	点数
1 (2)	石川県	8.7
2 (1)	北海道	8.5
3 (4)	京都府	7.3
4 (3)	沖縄県	6.9
5 (17)	山形県	6.1
6 (7)	岩手県	5.9
7 (8)	福井県	5.2
8 (17)	岡山県	4.9
9 (6)	秋田県	4.8
9 (21)	広島県	4.8
47 都道府県平均		3.7

※括弧内の数字は前年の順位・点数

<市区町村結果 主要な指標の上位結果(一部のみ)>

(表 12)魅力度

順位	市区町村名	点数
1 (1)	札幌市	59.4 (63.9)
2 (2)	京都市	57.8 (59.5)
3 (3)	函館市	56.6 (58.7)
4 (8)	金沢市	53.1 (50.9)
5 (7)	鎌倉市	52.0 (52.1)
6 (6)	神戸市	51.8 (55.7)
7 (4)	横浜市	50.7 (56.1)
8 (5)	小樽市	50.6 (55.8)
9 (9)	那覇市	46.4 (49.8)
10 (12)	軽井沢町	46.1 (48.8)
11 (11)	富良野市	45.5 (49.0)
12 (14)	仙台市	45.1 (45.5)
13 (13)	熱海市	43.0 (45.8)
14 (10)	石垣市	42.8 (49.4)
14 (17)	別府市	42.8 (43.0)
16 (15)	日光市	40.7 (44.3)
16 (18)	沖縄市	40.7 (42.2)
18 (25)	箱根町	40.5 (38.4)
19 (24)	福岡市	38.7 (38.7)
20 (23)	伊勢市	38.4 (39.0)
21 (16)	宮古島市	37.9 (43.7)
22 (21)	長崎市	36.7 (40.4)
23 (22)	伊豆市	36.1 (40.2)
24 (20)	屋久島町	35.6 (41.8)
25 (19)	名古屋市	35.3 (41.9)
1,000 市区町村平均		10.9 (11.2)

(表 13)居注意欲度

順位	市区町村名	点数
1 (1)	横浜市	25.8
2 (3)	札幌市	21.9
3 (4)	京都市	21.3
4 (2)	神戸市	21.0
5 (8)	福岡市	19.9
6 (5)	鎌倉市	18.9
7 (7)	金沢市	18.3
8 (6)	港区	17.2
9 (27)	仙台市	16.9
10 (14)	軽井沢町	16.3
1,000 市区町村平均		6.1

(表 15)食品想起率

順位	市区町村名	点数
1 (1)	夕張市	45.7
2 (1)	札幌市	43.8
3 (3)	仙台市	39.5
4 (5)	宇都宮市	34.7
5 (4)	函館市	33.8
6 (9)	喜多方市	33.1
7 (18)	盛岡市	31.1
8 (10)	松阪市	29.7
9 (6)	浜松市	29.3
10 (8)	米沢市	29.0
1,000 市区町村平均		4.3

(表 14)観光意欲度

順位	市区町村名	点数
1 (1)	札幌市	61.2
2 (2)	函館市	59.9
3 (3)	京都市	57.5
4 (4)	小樽市	53.9
5 (10)	金沢市	53.6
6 (5)	横浜市	52.9
7 (13)	鎌倉市	52.1
8 (6)	石垣市	51.5
9 (8)	那覇市	50.9
10 (9)	神戸市	50.5
1,000 市区町村平均		21.8

(表 16)食品以外想起率

順位	市区町村名	点数
1 (1)	今治市	18.3
2 (2)	鯖江市	14.9
3 (3)	輪島市	14.6
4 (4)	有田町	13.2
5 (5)	伊万里市	12.4
6 (11)	三条市	10.7
7 (6)	天童市	9.8
8 (10)	益子町	9.7
9 (13)	燕市	9.3
9 (14)	金沢市	9.3
1,000 市区町村平均		0.9

※括弧内の数字は前年の順位・点数

<問合せ先(メディアおよび読者とも)>

株式会社ブランド総合研究所
 Tel. 03-3539-3011(代) Fax.03-3539-3013
 E-mail: survey2023@tiiki.jp